

ミファラ ド・レ・美原[♪]カフェ

～障害のある方や家族、地域みなさんが集うカフェ～

平成 30 年 7 月 25 日（水）10：30～14：30 美原総合福祉会館 1 階 喫茶コーナーにて開催。

ド・レ・美原[♪]カフェは、「普段から気軽に相談できる場があればありがたい…」とのご意見をいただき、今回初めて企画・開催したものです。当日は、約 70 名の来場があり、会場内の「憩いと交流のカフェコーナー」や「障害に関するパンフレットコーナー」などを利用されました。



▲ド・レ・美原[♪]カフェ会場の様子

来場者が展示パネルを見て、「ちょっと聞いていい？」とコーナー担当のスタッフに質問する場面も見られ、自然と交流が生まれていました。障害に関する相談窓口や、当事者・家族団体、ボランティアサークルがある事を知ってもらい、気軽に相談ができる地域になればと考えています。

今回は、まずは第一歩進めることができました。

ド・レ・美原[♪]マルシェのご案内

ド・レ・美原[♪]マルシェでは、障害者作業所の皆さんが作ったパンやケーキ、菓子、レタス、陶芸品、雑貨などを販売しています。美原区と周辺の東・北区の作業所が参加し、それぞれ特色のある品物を販売しています。ぜひ、ご来場ください。

毎月第 3 水曜日
10:00～14:00（※4 月以降は 10:00～13:00）
美原区役所 1 階風の広場で開催！

▼ド・レ・美原[♪]マルシェ横断幕



平成 29 年 12 月～平成 30 年 2 月にかけて、ド・レ・美原[♪]マルシェ参加事業所と来場された市民の方々が協力して横断幕を作成し、平成 30 年 8 月 22 日に会場でお披露目しました。



▲ド・レ・美原[♪]マルシェ会場の様子

美原区障害者自立支援協議会は、「障害」に関する相談機関・団体で構成されています。

「地域とつながる自立支援協議会」をテーマに、障害のある人が美原区で尊重された一人の人として、社会参加や活躍ができるための活動をしています。

編集・発行 美原区障害者自立支援協議会

事務局：美原区障害者基幹相談支援センター

美原区黒山 167-9（美原区役所別館 2 階）

電話：072-361-1883 FAX：072-361-4444

Mail：miharaku-shouki@soudan-net.jp

地域とつながる 美原区障害者自立支援協議会 だより

第 2 号
2019.1 発行

美原区障害者自立支援協議会
マスコットキャラ カネッチくん



障害を知ってもらおう！ 「障がいスタンプラリー」を開催

すこやか
フェスタ

10 月 27 日（土）、美原中学校で『すこやかフェスタ 2018』（主催：美原区内の 3 つの中学校の地域教育協議会）が開催され、美原区障害者自立支援協議会も参加しました。ボランティアの皆さんにお手伝いいただき、『きて』『みて』『体験』障がいを知ろう』をテーマに、障害に関するクイズや、車いす・手話・点字などの障害体験に挑戦する『障がいスタンプラリー』を行いました。

当日は約 150 名の参加があり、「今年も来たよ」「ここで教えてもらった点字、覚えているよ」などの嬉しい声が寄せられました。また、手話体験をした児童が、教えてもらった手話を楽しそうに練習している姿もありました。

これからも地域の皆さんと一緒に、障害を知ってもらおう“きっかけづくり”を、続けていければと思います。



▲手話体験の様子



▲車いす体験の様子



▲点字体験の様子



▲受付の様子



▲景品お渡しの様子



▲クイズコーナーの様子



となりの〇〇さん

このコーナーは障害のある方の日常をご紹介します

今回は、視覚障害者の千田勝夫さん・絹枝さんご夫妻宅を訪問し、お二人からお話を伺いました。千田ご夫妻は、毎年、10月に開催されています「すこやかフェスタ」の障がいスタンプラリーの点字講座にお手伝いいただいています。

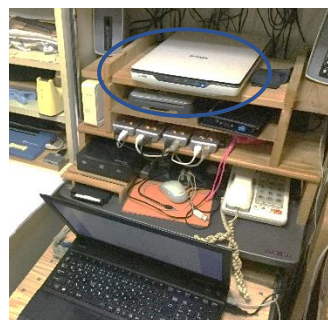
千田絹枝さん 千田勝夫さん ご夫妻

夫の勝夫さんの書斎には、パソコンや点字ディスプレイ、スキャナ、点字印刷機等の機器が手製のラックに整頓して配置されていました。これらの機器は、仕事での文書入力、情報伝達・収集に使われています。

パソコン画面上の文書に合わせ、点字の凹凸が出てくる点字ディスプレイや、印刷された書類をパソコンに取り込むスキャナなど、視覚障害者が使用するために便利な機能を見せてもらいました。これらの機器の使用法は「必要だから、覚えました。」と話されていました。また、昔は、漢字点字対応のワープロは、車が買える程の高額だったそうです。



▲点字ディスプレイ



▲スキャナ



妻の絹枝さんに台所を案内していただきました。料理について、「揚げ物は揚げると箸で確認できるけど、焼き物は熱いから、手で確認できません。だから友人やヘルパーさんに助けてもらっています。」と話されていました。週1回程度お手伝いに来てもらっているそうですが、ほとんどの事はご自身でされていました。「何か工夫されていますか？」との質問に、ハンガーで造ったゴムホルダー（写真：左）を見せてくれました。「あまり視覚障害と関係ないわね。」と笑顔で話してくれました。

お話を伺っている最中にオルゴール（写真：右）が聞こえ、「この音は何ですか？」と聞くと「1時間に1回、明るさを感知し音の鳴る時計です。」と見せてくれました。「夏は日が長いので13回、冬は日が短いので10回も鳴りません。」とのこと。電気の消し忘れがあっても、オルゴールで気がつくそうです。特別な時計ではなく、まちの電気屋さんで購入されたそうです。日常生活を暮らしやすく工夫されている姿は、私たちの日常と大きな違いを感じませんでした。



点字が記されています



◇書籍案内◇「全盲夫婦」二人三脚のあゆみから
千田勝夫・千田絹枝 著 編集発行 福祉ひろば
※視覚障害者のことを理解してもらえる書籍です。関心のある方は事務局までお問合せください。



〇〇さんの「はたらく」を紹介

障害のある方の「はたらく」をテーマにしたコーナーです



◇美原区在住 30代・男性 A さん（診断名：統合失調症、精神障害者手帳）◇
20代前半から、周りの人には感じない「幻聴」が聞こえ始めました。職場では同僚等から注意される機会が増え、仕事を続けることが難しくなってしまう、自宅での引きこもり状態が数年続きました。
20代後半、美原保健センターに相談した際に、就労継続支援 B（非雇用）型の事業所「サニーカフェ」を知って、定期的に利用しました。そこで徐々に働く自信を取り戻して、現在は美原区内のスーパーで働いています。
主な仕事の内容は、広いスーパーの中や周辺の清掃です。朝からや昼からの出勤があって、週 20 時間働いています（時給 940 円）。また、病院の通院日は、きちんとお休みをもらっています。

インタビュー



働いてみてどうですか？

正直、掃除の仕事は初めてで、ひとり仕事なので、やっていけるかどうか不安でした。ハローワークの相談員にそのことを伝えると、会社と私（A さん）との間で調整してくれる人（ジョブコーチ）が支援してくれることになりました。会社も掃除のマニュアルを作成してくれました。おかげで、仕事を始めて 3 カ月ですが、だいぶ慣れてきました。

最近では、お客さんから商品の場所を聞かれると返答に困るので、その対策として、「清掃担当」の名札を作ってもらうことになりました。また、社員さんだけでなく、パートさんも気さくに私に声をかけてくれます。ですから、わからないことも尋ねやすく、不安なことがあっても、安心して働いています。



やりがいを感じる瞬間は？

トイレの掃除をしている時、「いつもきれいにしてくれて、ありがとう。」「気持ちよく利用できて助かるわ!」などの声をかけてもらえた時。
お礼や励ましの言葉をもらった時は、自分を認めてくれていると感じ、とても嬉しいです。

仕事で心がけていることは？

「休まずに、仕事に行こう」と目標を立て、「早寝、早起き」を心がけています。だいたい夜 9 時に寝て、朝は 5 時に起きています。特に、生活のリズム、体調・体力の維持管理に気を遣っています。

これから働く障害のある方へメッセージ

自分に合ったトレーニングを積んで、体力と生活のリズムを整えることが大切だと思います。それで「働きたい」という思いがあれば、私のように働けると思います。

いつもきれいにしてくれて
ありがとう



ひとことコメント（堺市障害者就業・生活支援センター エマリスより）

A さんのように、職場で働くことに不安があっても、ちょっとした工夫や理解をえるためのサポートをすることにより、たくさんの方が継続して働いています。A さんが活用したジョブコーチ支援は、支援者が職場に介入し職場適応をサポート、事業主に対しても助言を行い、双方が安心して働く（雇い入れる）ことができます。

障害者雇用は年々拡大（特に精神障害のある方の就職件数等は大きく増加）しており、就労をサポートする仕組みも充実してきています。

美原区には、「サニーカフェ」のような、就労に向けてステップアップできる事業所や相談できる場があり、安心して就労にチャレンジできると思います。

※エマリス（堺市障害者就業・生活支援センター）は、堺市在住の障害のある方の「働きたい」「働き続けたい」という思いに対し、「企業で働く、働き続ける」ためのサポートする専門機関です。